

カルメル霊性センター(月刊)

2003(平成15年)3月号

2003. 3

霊性センターニュース

175号



〒611 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

宇治聖テレジア修道院(黙想)

TEL 0774-32-7016
FAX 0774-32-7457

「欺く弓で射た矢」

カルメル会 中川 博道

「彼らはいと高き神を試み反抗し、その定めを守らず
先祖と同じように背き、裏切り、欺く弓で射た矢のようにそれて行き…」

(詩編 78: 56~57)

神学生時代、ひとりの友人が何気なく口にした言葉は、私の聖書理解を変えました。
「罪という言葉の語源には『的を射そこなう』という意味が隠れているんだよね。」

『的はずれであること』

『何かと何かの間がずれていること』

『出会うべきものが出会えていないこと』

聖書が『罪』という言葉で表したかった人間世界の現実は、「何かをやったかやらなかったか」ということよりも、もっと深い存在のあり方です。

私たちは、自分のあり方が的外れではないかと自問します。

誰かとの関係が歪んだもの、本来のものからずれてはいないかと振り返ります。

私の存在の根であるお方(神)との関係、私の隣人との関係、そして、私と自然との
かかわりは、どうなっているのだろうか。

神と人と自然との出会いの調和の中で、初めて人間となっていける私たちのあり方が今、新たに問われています。環境破壊・戦争・不和・無宗教・人生をこの世だけのものとして捉えていく世俗主義 etc. 個人、共同体、国家のレベルで私たちは問われています。

この出会いの関係性を破壊する「闇の力」は、決して過去のものではありません。今も生々しく働いています。

「灰の水曜日」から始まる四旬節、消えていくものを見極めつつ、私たちを本来の関係性のなかで新たに創造する、愛であるお方の息吹に満たされる時となっていくように。

霊性センターカルメル

1. 聖書深読黙想会

(1)上野毛聖テレジア修道院（黙想）(2003年黙想会年間スケジュールのページを
ごらんください)。

(2)宇治聖テレジア修道院（黙想）（2003年黙想会年間スケジュールのページを
ごらんください)。

(3)名古屋（日比野教会）連絡：小林厚 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115

(4)大分聖テレジア修道院（黙想）

連絡：富田恵子 〒870-1125 大分市上宗方1803-3 TEL. 0975-41-4012

(5)横浜聖書深読黙想会・ 諸所の企画をごらんください。

連絡：蜜本昌俊 電話 045-621-5838

(6)通信聖書深読

朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を
組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡：菅谷俊子、 東京都新宿区住友ビル私書箱22. TEL. 03-3344-2527

*「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンス宗教研究所出版。

定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。3冊以上注文されれば 20 %引。

オリエンス宗教研究所 FAX. 03-3325-5322

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEL. 03-3322-7601

* 聖書深読黙想会

東京・上野毛聖テレジア修道院（黙想）

2003

3月1日（土）夕食18時～3月2日（日）16時 奥村神父

2003年 カルメル会 東京・上野毛聖テレジア修道院(黙想)

黙想会年間スケジュール

1. 信徒と奉献生活者のための個人指導黙想会

スタッフ：星野正道師 (カルメル会)、原 造修士 (カルメル会)
Sr.中川享子 (ケベックカリタス会)

- (1) 6月 7日 (土) 16時～16日 (月) 朝食
 - (2) 10月20日 (月) 20時～29日 (水) 朝食
- 全期間参加の方優先ですが、二泊からの部分参加も可能

2. 奉献生活者のための黙想会

- (1) 7月30日 (水) 16時～ 8月 8日 (金) 朝食 渡辺幹夫師
- (2) 8月12日 (火) 16時～ 8月21日 (木) 朝食 星野正道師
- (3) 12月26日 (金) 16時～翌年1月4日 (日) 朝食 チプリアーノ師

3. 聖書深読黙想会

次の各土曜日の夕食から日曜日の16時30分まで

- (1) 4月12日 (土) ～13日 (日) 奥村一郎師
 - (2) 6月28日 (土) ～29日 (日) 九里 彰師
 - (3) 9月27日 (土) ～28日 (日) 星野正道師
 - (4) 11月29日 (土) ～30日 (日) 九里 彰師
- 2004年
- (5) 2月21日 (土) ～22日 (日) 星野正道師
 - (6) 3月 6日 (土) ～ 7日 (日) 奥村一郎師

4. ウェンズディ・リトリート

スタッフ：星野正道師 (講話、ミサ、etc.)

テーマ：「み手の中ですべては変わる」

A

B

- | | | |
|----------------|----------------|----------|
| (1) 4月23日 (水) | (1) 5月21日 (水) | 1.0時～16時 |
| (2) 6月 4日 (水) | (2) 7月 2日 (水) | 〃 |
| (3) 9月 3日 (水) | (3) 10月 1日 (水) | 〃 |
| (4) 11月 5日 (水) | (4) 12月 3日 (水) | 〃 |
| (5) 2月18日 (水) | (5) 3月 3日 (水) | 〃 |

5. 奉獻生活者と信徒のための黙想会

2004年1月19日(月)16時～1月28日(水)朝食 星野正道師

6 特別黙想会

最初の日の夕食をすませてからの集合。どなたでも参加できます。

- (1) 7月 7日(月)20時～9日(水)15時 新井延和師
- (2) 11月18日(火)20時～20日(木)15時 〃
- (3) 12月 5日(金)20時～7日(日)15時 Sr.伊従信子

7. 大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後3時から。(講話なし)チェックアウト午前10時まで

- (1) クリスマス 12月24日(水)～25(木)朝食
- (2) 復活祭 2004年4月11日(土)～12(日)朝食

8. ユース・リトリート

若者のための黙想会

11月22日(土)夕食～11月23日(日)16時 大瀬高司師

9. 男子青年黙想会

スタッフ: カルメル会士

- (1) 5月16日(金)20時～18日(日)16時
- (2) 11月 7日(金)20時～9日(日)16時

10. 男子召命黙想会

スタッフ: カルメル会士

10月3日(金)20時～5日(日)16時 (修道生活体験あり)

その他、皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。
(お問合せ、お申込み) カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355(黙想) FAX. 03-3704-1764

上記が通じない場合は、修道院 TEL. 03-3704-2171 へお願い致します。

ただし、黙想関係の受付窓口を一つにしておりますので、電話でのお問い合わせは、なるべく午前9時～午後5時までの間にお願い致します。

尚、受付が休みになっている際は、すぐにお返事ができない場合もあります。その際は、恐れ入りますが、後日改めてお問い合わせ下さいませよう願ひ致します。

2003年4月 ~ 2004年3月

カルメル会 宇治聖テレジア修道院 黙想会案内

【聖書深読】・・・毎回土曜日 午後5時～日曜日午後4時まで

4月26日～27日・・・奥村一郎師
5月17日～18日・・・新井延和師
7月19日～20日・・・星野正道師
9月20日～21日・・・九里彰師
10月18日～19日・・・中川博道師

11月22日～23日・・・新井延和師
12月13日～14日・・・大瀬高司師
04' / 1月24日～25日・・・奥村一郎師
2月7日～8日・・・未定
3月20日～21日・・・奥村一郎師

【青年のための黙想】

5月23日(金) 午後8時から(夕食を済ませてきて下さい) 25日(日) 午後4時まで
・・・九里彰師・カルメル会士
11月7日(金) 午後8時から(夕食を済ませてきて下さい) 9日(日) 午後4時まで。
・・・大瀬高司師・カルメル会士

【女性のための黙想】 7月5日(土) 午後5時～6日(日) 午後4時・・・星野正道師・カルメル宣教修道女会
12月7日(日) 午前10時～午後4時まで・・・カルメル宣教修道女会

【奉獻生活者の黙想】

7月7日(月) 午後5時～16日(水) 朝まで・・・星野正道師
8月6日(水) 午後5時～15日(金) 朝まで・・・中川博道師

【一般のための黙想】・・・水曜黙想・・・毎回水曜日 午前10時～午後4時まで

4月23日・・・復活・・・新井延和師
5月14日・・・聖マリア・・・奥村一郎師
6月18日・・・聖霊・・・長岡幸一師
9月17日・・・十字架の神秘・・・新井延和師

10月8日・・・アピラの聖テレジア・・・新井延和師
11月12日・・・愛と死・・・奥村一郎師
04' / 1月14日・・・一年の初めに・・・Srベアトリス
2月11日・・・恵み・・・アロイジオ師

【幼なきテレズ】・・・10月4日(土) 午後5時～5日(日) 午後4時まで。・・・伊従信子氏

【待降節黙想】・・・11月29日(土) 午後5時～30日(日) 朝まで。・・・星野正道師

【四旬節黙想】・・・04' / 2月14日(土) 午後5時～15日(日) 午後4時まで・・・未定

【信徒と奉獻生活者の個人指導黙想会】 04' / 3月6日(土) 午後5時～3月15日(月) 朝まで
・・・星野正道師、Srベアトリス、他 (2日以上から何日でも参加可能です)

【特別黙想会】・・・英語による黙想会・・・Srベアトリス (部分参加も可能です)

4月29日(火) 午後5時～5月3日(土) 朝食まで。

《申し込み：ハガキ またはFAXにて・住所・氏名・電話番号・(所属修道会名) を書いてお申ください。

ただし、【一般のための黙想】の水曜黙想は、電話での受付もいたします。

また個人、グループの黙想もできますし、個人、グループが企画した黙想のための場所としてもご利用ください。》

〒611-0002 宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院 宇治聖テレジア修道院(黙想)

☎ 0774-32-7016 / FAX 32-7457

祈り

カルメルの霊性に基づいて

月	日	テーマ
2月	24日(月)	祈りとはなにか
3月	3日(月)	イエスが祈ったように祈りましょう
	17日(月)	罪によって傷ついている
4月	7日(月)	祈りとは神との親しさ
	21日(月)	復活された方と生きる
5月	5日(月)	マリアのように祈る
	19日(月)	祈るための人間性の大切さ
6月	2日(月)	聖霊によって祈る
	16日(月)	祈り三位一体的な経験

時間：2：00～4：00

どなたでも参加できます。

費用：無料

担当：カルメル宣教修道女会 シスターベアトリス

場所：宇治カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：キリストとの出会い

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩5分）
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会(TEL 03-3704-2171)

日時：下記の各土曜日 午後2時半開始（講話の後ミサがあります）



- 3月8日（土） 新井延和（カルメル会司祭）
「パウロとキリストとの出会い」
- 3月15日（土） 中川博道（カルメル会司祭）
「祈りの中でキリストに出会う」
- 3月22日（土） 松田浩一（カルメル会司祭）
「会則を生きるー共同体とキリスト」
- 3月29日（土） フランコ・ソットコルノラ神父（生命山カトリック別院）
「典礼の中でキリストと出会うー土着化の例」
- 4月5日（土） 奈良康明師（駒沢大学前学長）
「生活の中に『法』を証する」

【外部講師の紹介】

フランコ・ソットコルノラ神父

聖ザベリオ宣教会司祭(元管区長)。イタリア、ベルガモ市生まれ。聖ザベリオ神学院で神学、特に典礼学および哲学を教える。ローマ教皇庁典礼省勤務。熊本県玉名に東西宗教交流センター(生命山カトリック別院)を設立し、諸宗教との対話を積極的に行なう。神学、典礼に関する著書や論文多数。

奈良康明師

1929年、千葉県生まれ、東京大学文学部インド哲学梵文学科卒業。カルカッタ大学大学院人文科学研究科(比較言語学科)博士課程終了。インド宗教文化史専攻。文学博士。駒沢大学前学長。編著書：「仏教史Ⅰーインド・東南アジア」「仏教の教え」「釈尊との対話」「仏教の心を語る」仏教名言辞典他多数。

処女マリアのロザリオ (3)

チブリアノ・ボンタッキョ神父

「マリアと共にキリストを観想する」この句はヨハネ・パウロⅡ世教皇様の使徒的書簡の第1章の表題です。この第1章の内容を簡潔に紹介したいと思います。

キリストはその生涯をとおして、1度だけ御自分の顔の輝きを示されました。それは、変容の時でした(マタイ 17.2)。それ以外は、その輝きはずっと隠されていました。

私達はロザリオを唱える時、黙想する奥義の中のキリストの御顔の輝きを観想することを求められています。

マリアはこの努力をする観想者の比類なき手本です。マリアのまなざしは、ご託身の時から常にその子イエスに向けられ離れることがありませんでした。そのまなざしは、時によって問いかけるものとなりました。それは、3日間も12才のイエスを探して、とうとう神殿で彼を発見した時でした。その時マリアは「なぜこんなことをしてくれたのです。」(ルカ 2.48)と問いかけたのです。

カナの婚礼の時、マリアのまなざしはイエスの心の意向を読み取るものとなり(ヨハネ 2.1)、十字架の下に立っていたマリアのまなざしは悲しみに満ちたものとなりました(ヨハネ19.26)。

復活の時は、喜びにあふれるまなざしとなり、聖霊降臨の時は、愛に燃えるまなざしとなりました。

さらにマリアはイエスのなさることや、おっしゃる言葉、またその身のまわりに起こる出来事をひとつひとつ「心におさめて思い巡らしていた」(ルカ 2.19)。

私達もロザリオの時、マリアと共にマリアに助けられて、ロザリオの奥義の中に隠されているイエスの御顔を観想するようにします。「観想なしのロザリオは魂の抜けた体のようになり、心の意向が欠けた、ただの言葉の反復になってしまいます。」(パウロ 6世のマリア崇敬)より)。ロザリオはその本来の性質からして、ゆっくりと思いにふけりながら唱える祈りです。

さて、ロザリオを唱える時、私達は誰よりもキリストの神秘の中に深く導かれたマリアのまなざしをもって、救いの業を「過去」の出来事としてではなく、「いま」の出来事として観想するようになります。またロザリオの時、私達はキリストに最も近いマリアからキリストを学び、キリストの神秘の中に導かれます。

さらに、ロザリオの祈りをもって、私達はキリストに最もよく似ているマリアの母性愛に身を委ね、私達もキリストに似たものとなるように導き、助けてくださるよう祈ります。

また、ロザリオの時、マリアと共に祈ります。マリアのとりなしの力強さはカナの婚礼の時に示されました。

最後に、ロザリオを共同で唱える時、私達はマリアと共にキリストを宣言します。なぜなら、ロザリオの時、私達はキリストを中心とする奥義を宣言するからです。

在俗者会集会講話より
(2003. 1. 19)



2003年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場 所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

日 程

ご指導

- ・ 5月 2日 (木) 夕食 ~ 5月 5日 (日) 昼食 アロイジオ神父様
- ・ 6月24日 (火) 夕食 ~ 6月27日 (金) 昼食 九里 彰神父様
- ・ 9月12日 (金) 夕食 ~ 9月15日 (月) 昼食 中川 博道神父様
- ・ 10月16日 (木) 夕食 ~ 10月19日 (日) 昼食 星野 正道神父様
- ・ 11月13日 (木) 夕食 ~ 11月16日 (日) 昼食 チブリアノ神父様

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

☆お申込み、お問合わせは下記まで

TEL・FAX 03-3892-1378 (阿部 昌子)

断 想 178

ある日 寒村に消えた姉妹

十一日間にわたる搜索の必死の努力も空しく死体の姿で発見された幼い二人の姉妹、八才の晃世あきせチャンと五才の梨世りせチャンの死を思うと心が痛む。岡山県東粟倉村の山中で、行方不明から十八日目に二人の遺体が見つかったという。いつか他界されて間もなかった祖父の葬儀では、「お祖父ちゃん起きて、起きて」とくりかえしていた梨世チャンの姿が思い出されていっそう心が痛むとも付記されていた。

「愛と死」というのは、千差万別の様相に包まれている人間の命の神秘である。

「生きることは愛すること。愛することは死ぬこと。愛の死とは大いなる神のみ手のうちに沈むことである。

そこでは、大空から宇宙の讃歌が響いてくる。

うなだれてばかり
あゆむべきみちではあるまい
おまえよ
かんがえてもみるがいい
うつくしいひとりの少女が
こえもなく死んでしまったことは
大哲人の生きて説くより
より価値すくない出来事であろうか

八木重吉（「花と空と祈り」）

ここで、さらに、二人の姉妹を置き換えてもよいのではなからうか。
またさらに、ひとりの貧しい年老いたホームレスでもよいのでは？
いずれにしても、最後に来る人は、貧しい人々を極めなく愛し、すべての人のために十字架の上にその命を捧げきった神の子イエス、キリスト、さらには、その十字架のもとに黙して立っておられた聖母マリアのみ姿がある。



… 主の御手のもとに生きる …

エディット・シュタインのメッセージ

—MARCH—

キリストに従うことなくして、同時にキリストを信じることは出来ません。

人間の靈魂をめぐって、戦いが交わされています。天国と地獄が、人間の靈魂を求めて戦っているのです。

いつくしみの光によって照らされ、この光のうちに自己を見る靈魂は、自分の中の何が悪であり、何が悪であったのかを、認めなければなりません。そして、嫌悪感で一杯になって、この悪を追い払わなければなりません。こうして悪を追い払うとき、靈魂は悪から自由になり、ゆるされるのです。

主のご生涯において最も幸福であられた時は、確かに、夜の静けさの中でひそかに交わされた、御父との対話の時であったはずです。しかし、この時間は主に群がる人々のただ中でなされた仕事の後の休息の一時、ちょっとした息抜きの時であったのです。

聖書は、内的生活の掟に関する教えのあふれ出る泉です。

愛を込めて神の方に向くことは、神的啓示を忠実に受け入れることの一部です。しかし、このプロセスは、神がいつくしみと栄光のうちにご自身を靈魂に明け渡し、靈魂にご自分の神的生命を分かち与え、靈魂をご自分の存在のうちに引き寄せた後にのみ、完成します。

神は、人間の靈魂を、神ご自身のためにお造りになりました。神は、彼らをご自分と一致させ、ご自身の生命の充満と至福を、この世においてさえ与えたいと望んでおられます！

すべてを吟味し最善を保ちなさい！ けれども、それによって、未熟な批判をするようになってはなりません。それは、私たちが絶対的な基準を有していることとしるしとして、また、私たちの道が他のすべての道と異なっていることの象徴としての役割を果たすべきです。

聖人でさえ、砂漠のうちに忍耐しなければならない内的乾燥の時期を経験しています——そうです、聖人は特にそれを経験するのです。なぜなら、それは、彼らに向かってあふれ出るいつくしみの光と内面に燃える靈の炎を感じる時期とは、全く異なっていますから。

十字架のしるしのうちに、私たちは勝利を得るでしょう。それは、私たちが——成功しようと、しまいと——私たちを取り巻く環境、民族、教会のための祝福として、私たちの人生を完全に生きるということです。

神の救いのご計画が、全人類に、そして、全人類のために神がお選びになった人々にかかわることであるのは、真実です。けれども、一人一人の靈魂すべても、神にとって重要なのです。神は、一人一人の人に、花嫁に対するように愛を求め、その一人一人を揺らぐことのない心遣いをもって取り囲んでおられます。このような神の求愛は茨となり、靈魂はもはや休息を見いだせなくなってしまいます。

私たちのまわりが暗くなればなるほど、私たちは自分の心を、上からの光に向かって開放しなければなりません。

至福の乙女マリアが「フィアット(お言葉どおりになりますように)」と言われたとき、それは、この地上における神の民の誕生となりました。そして、彼女は神の最初のはしめためとなりました。

拘束力をもって、靈魂に要求がつけつけられていると感じられるとき、それはすべて、本質的には、神からのメッセージなのです。そして、そのようなメッセージを喜んで受け入れる人は誰でも、同時にその要求に応えるための力をも、神からいただくのです。

清めの山はカルワリオと呼ばれています。その山の頂上に、十字架がそびえ立っています。それは、天に通じる唯一の道として、永遠に真っすぐに立ち続けるしるしであり、識別と決断を要求するしるしです。

* * * * *

この記事は、ケルン・カルメル会の Sr. マリヤ・アマータ・ナイヤーが編集し、聖女エディット・シュタインの姪に当たるスザンヌ・バツドルフさん(米国カリフォルニア州在住)が英訳された An Edith Stein Daybook: To Live at the Hand of the Lord (Templegate Publishers, Springfield, Illinois, U.S.A.) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

エディット・シュタイン(十字架の聖テレジア・ベネディクタ) 略歴

1891年10月12日にプレスラウにユダヤ人として生まれ、1922年1月1日にベルグツアーベルンのカトリック教会で洗礼を受けた。フッサールの門下生として、哲学、女子教育の分野で活躍した後、1933年10月14日にケルンの跣足カルメル会に入会、十字架のテレジア・ベネディクタの名を受ける。1938年末、ナチの迫害を逃れてオランダのエヒト・カルメル会修道院に移るが、1942年8月2日、ナチに逮捕され、同年8月9日アウシュビッツにて殉教の死を遂げる。1987年5月1日教皇ヨハネ・パウロ二世により列福、1998年10月11日、同教皇により列聖。1999年10月1日、シエナの聖カタリナ、スウェーデンの聖ビルジッタと共に、ヨーロッパの保護者と宣言される。

(西宮カルメル会 訳・編)

ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(53)

絶えず考えることから絶えず祈ることへ

私たちの心は、いつも活動しています。分析し、反省し、空想し、夢を見ます。昼も夜も、一瞬たりと、私たちが考えていない時はありません。人は、私たちの思考活動は、「絶え間ない」と言うかもしれません。時々、私たちは、考えることをしばらく止めることができたらと考えます。そうすれば、多くの思い煩いや罪の意識や恐れから救われるだろうと。つまり、私たちの考える能力は、私たちにとって最大の贈り物ではありますが、最大の悩みの種でもあるのです。それでは、私たちは、絶え間ない思考の犠牲者とならなくてはならないのでしょうか。いいえ、そうではありません。私たちは、私たちの内的な独り言を、あらゆる愛の源である私たちの神との絶えざる対話とすることによって、絶え間ない思考を絶え間ない祈りへと変えることができるのです。

孤立の状態から抜け出しましょう。私たちの存在の中心におられるお方が、私たちの心に吹き荒れるすべての思い煩いに、いつくしみ深く目を注いでおられることを悟りましょう。

(0114)

愛の静かなささやき

多くの声が、私たちの注意を引きつけます。「良い人間であることをお前は証ししなくてはならない」という声が聞こえ、「お前は、自分自身を恥じるべきだ」と別の声がします。また「だれも本当は、お前のことなど気遣っていないんだよ」という声もします。また別の声は、「お前は間違いなく成功し、名声と権力を手にするよ」と言います。しかし、これらすべての、しばしば騒がしい声の下に、静かな小さな声があるのです。それは、「あなたは私の愛する子、私の心にかなう者」というささやきです。これこそ、私たちが何よりも聞かねばならない声なのです。しかしながら、この声を聞くには、特別の努力が求められます。すなわち、孤独と沈黙とその声に耳を傾けようとする強い決意です。

そしてそれが、祈りの本質なのです。祈りとは、私たちを「私の愛する子」と呼ぶ声に耳を傾けることだからです。

(0113)

九里 彰訳

イエスは言った。「誰も新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはしない。」

マルコ 2 : 18~22

今日の朗読から読みとれるのは、イエスの霊性を非難するファリサイ派とヨハネの弟子たちのねたまです。それに対してイエスはその非難に報いて言い負かすより、むしろ神の意志を為しとげるための新しい道へと彼らを招いておられます。

断食は、婚儀の週以外に課せられるユダヤ信仰における厳しい務めです。信仰上いかに熱心かを誇ろうと彼らの多くは断食に励みましたが、それは決して心からの行いとは言えませんでした。イエスのご自身を花婿そのものと見なしておられます。ですからイエスと共にいるのは祝賀と饗宴のときなのです。今、私たちにとってもイエスは真の花婿です。日々イエスと出会う者には人生は婚礼の宴そのものです。けれども、イエスを見失ってしまった者は答えを求めて断食せざるを得ません。毎日の暮らしの中で花婿たるイエスと出会い、イエスを受け入れるまで、彼らは断食と祈りを続けねばなりません。私たちの人生は花婿イエスと一緒に旅をつづけていると言えます。

今日の福音は、生活そのものを喜びとみなすキリスト者の特徴を語ります。日々の暮らしの中でキリストに出会い、その友であること、これが幸福への鍵です。

ビマは北インドの辺境に住む地主でした。彼がしてきたことは、キリスト者である司祭や修道女また教会指導者を迫害することでした。まったく慈悲に欠けた彼は、男女を問わず子供までも残忍に殺してきました。ある日、ビマはいつものように人々を迫害しに行こうとして、ミサを捧げに村へと向かう一人の司祭に会いました。冷酷非道なビマは司祭に出くわしたことをこれ幸いとほくそ笑み、彼を捕まえてたたきのめしました。とうとう気絶してしまった司祭をそのままに捨て置いて、そのカバンを盗んで帰りました。家に戻ったビマは、カバンの中に一冊の聖書を見つけました。聖書を開いて読み始めたところは、キリストの磔刑の場面でした。それは彼の人生を一変させるものでした。それ以後ビマに会った人々は、それまでいつもそうであった冷酷粗暴な態度ではなく、にこやかであたたかい表情をビマに見ていました。聖書から何を得たのでしょうか、とにかくビマは生まれ変わっていました。その徴(しるし)が晴れやかな笑みにありました。

キリストに生きる人生は、喜びに生きること以外には決してありえないのです。

(Beatrice)

四旬節第1主日

「神の国は近づいた」

(マルコ1:15)

神の国とは、国境を有する領土のようなものでなく、神様の支配を表しています。最近話題になっているケセン語訳聖書では、神様のお取り仕切りと訳しています。とてもいい訳だと思います。神は私たちの生活の隅々まで取り仕切っています。一羽の雀も神の許しがなければ地に落ちる事がないのです。でも私たちは神のお取り仕切りが身近にあることを知らず、自分の思いや考えに従って生きがちです。マーリン・キャロザース著「獄中からの讃美」(いける水の川)に神様のお取り仕切りのすばらしいエピソードが出ています。

ベトナム戦争中のアメリカでの話です。弁護士のリオンが徴兵されました。法律家には軍隊でその特技を生かして専門将校になり、前線に行かなくてすむ道があるのですが、おそらくリオンは潔くないと思ったのでしょう、一兵卒として入隊しました。妻のスーは赤ん坊の頃養女に出された人です。養家と仲たがいでしてしまい、今は夫だけが頼りという状態です。スーはリオンが軍隊に入ってしまった、寂しさに耐え切れず、自殺未遂をしてしまいました。何とか立ち直ったものの今度はリオンがベトナム行きの命令を受けました。スーは、もしリオンがベトナムに行けば自殺すると言います。困り果てたリオンはチャプレンのマーリン・キャロザースに相談しました。

チャプレンはスーを呼び、「どんな事にも神に感謝しなさい。これこそ神が望んでおられることです。」(Iテサロニケ5:18)とのパウロの言葉を引用して説得しますが、スーは全然受け付けません。リオンも同じです。しかし、チャプレンが辛抱強く「神は信じるものにはすべてが益となるように働いてくださる」(ローマ8:28)と語っていくうちに、二人は今の事態を感謝してみようと思うに至りました。するとまもなく偶然に、スーの実の弟がリオンのいる基地で見つかりました。またリオンもばったりとロースクールの旧友で、今は法律部門の将校をしている人に会いました。彼はリオンを説得して、法律部門への転属願いを出させました。その結果リオンはベトナム行きをまぬかれたのです。

できすぎた話だとお感じになるかもしれません。しかし実はわたしたちの人生においてこういう事は意外に多いのかもしれません。神は私たちの人生を御旨のままに動かしたいとお考えです。しかし私たちが自分の力で生きたいと思い、勝手に動き回ってばかりいると、神も私たちの人生を取り仕切れないのです。神の主権を認め、静かに穏やかにすべての事について神に感謝するとき、私たちは神のお取りしきりの中に入り、神の国で暮らす自由を味わう事でしょう。

(新井)

四旬節第2主日

これはわたしの愛する子。彼に聞け。

マルコ9：2～10

変容の出来事は、イエスの受難と死の直前に書かれています。これはまるで父が次のように言うかのごとく聞こえます。「これは我が息子。彼を捕まえ、彼をはりつけに処しなさい。そうするなら、あなたは彼をもう少し愛せるのかもしれない。そうすれば、もう少しあなたは私を愛し信頼することができるかもしれない。」

今日の第一朗読のイサクと福音書のイエスとは完全に一致しています。どちらも十分に愛された、父のひとり子でした。どちらも共に殺されねばならないときに、木を運びました。二人とも愛のために死をもいとわぬ無垢な存在でした。

インドにはマリアの山という名の教会があり、多くの人が祈りまた癒しを求めてそこを訪れます。ある日のこと、ずいぶん遠くから一組の母子がやってきました。その母親に子供はその一人だけでした。その子は二十年間祈り続けた末に授かったのですが、今は白血病を患っていて医師からはもう治らないと言われていました。彼女が願うのは、ただ奇跡が起こることだけでした。祈っている彼女の心には子供をあきらめることに激しい抵抗があり、悶々と嘆き苦しんでいました。その悲嘆は見るに耐え難いものでした。そうして、奇跡は起こったのです。子供にとってではなくその母親のために、奇跡が起こったのです。彼女はわが子を捧げ物として神に差し出そうと突然思いました。そのわずか数日後にその子は死んだのですが、それでも彼女は神への信仰を失うことなく主に対して祈り続けました。そして驚いたことに一年後、彼女には一人の男の子が授かっていました。

キリスト者たること、それは私たちにとってほんの身近な最も愛するものを神に喜んでさしだせること(返すこと)を意味しています。アブラハムがそうしたように、父なる神がそうであったように、不治の病の子供を抱えたこの女性のようにです。私たちの最も身近な存在とは、おそらく親戚・友人といった人々、でなければ自らがそれまでに慣れ親しんだ生活そのもの、職業や考え方、偏見、曲げられない意志などがそれにあたることでしょう。最も大切なものを差し出すなら、そのときには新しい存在、新しい人生を受けると私たちは信じています。

十字架への道をまず旅する以外に、復活の栄光はありません。私たちを決して見捨てないほどに愛してくださる神への信仰を持ちましょう。

(Beatrice)

四旬節第3主日

十字架の愚かさ

(Iコリント1:22~25)

パウロは「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシャ人は知恵を探しますが、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。それは異邦人には愚かのもですが、召されたものには神の知恵、神の力です」と語ります。かつてある高僧の付け人をしていたとき、この言葉の意味をじっくり味わうよい機会がありました。

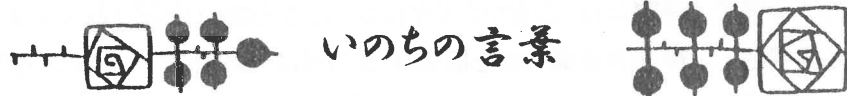
仏教では末期の一念を大事にします。心安らかに何も思い残すことなく死ぬなら、後生がよいとされます。半ば冗談に、死ぬときは残念とってはいけない、無念と言えと聞かされました。念が残ってはいけないからです。これから考えると殺されるのはよい死ではないことになります。師匠は戦前、マハトマ・ガンディーと暮らした事があり、とても尊敬していました。ガンディーが暗殺されたのには衝撃を受けたらしく、「なぜあれほどの人が殺されたのだろう」と仰っていました。あれほどの高い境涯に達した人なら、安らかに死ぬるように諸天善神が守るはずだと考えるのです。

その時「耶蘇も死に方が悪かった」とポツリと漏らされたのを覚えています。師匠は恐れ多くて、気安く質問などできなかつたので推測するしかないのですが、まず、仏教では殺された事自体よくないことです。また、師匠の蔵書にあった聖書には、マタイとマルコの福音書に書き込みがあったので、イエスが「我が神、我が神、どうして私をお見捨てになったのですか」と叫び、大声をあげてから息を引き取った事も指しているのでしょうか（これはマタイ、マルコに共通して書かれています）。確かにこの死に方は釈迦の平和な死に方に比べれば不様に見えることでしょう。しかしここにこそキリスト教の精髓があるのに、師匠にはなぜわからないのだろうと訝りました。

実はこの頃、師匠との24時間のお付き合いで見せていただいた文字通りの捨身の慈悲（衆生済度のために我が身を惜しまず、犠牲にする事）を通して、私はキリストがわかり始めていました。自分の利益を求めず、人々の救いのために献身する人が現に自分の目の前にいる事に圧倒され、これなら聖書に書かれている十字架の贖いも信じられると確信するようになっていたのです。師匠に十字架の意味がわからないのは、人は一つのものを選び取ると他のものがわからなくなるからだろうと考えました。私には仏教がよくわからないけれど、それは私がキリストを選んでしまっているからではないかと考え始めました。仏教はわからないままでよいのかもしれないとさえ思うようになりました。

私はその時、キリスト教作家の椎名麟三が洗礼を受けたとき、今までは死ぬのが怖かったが、これで喚きながら叫びながら、格好悪く死んでもいいのだとわかったので安心したと語ったのを思い出していました。

(新井)



神の声に耳を傾ける

今日こそ、主の声に聞き従わなければならない。(詩編95・7)

詩編の一節から取られたこの「いのちの言葉」は、私たちが神の民であることを伝えていています。神は私たちを約束の地に連れて行くため、羊飼いが羊の群れを牧するように、私たちを導くことを望んでおられます。永遠から私たちのことを考えてくださる神は、私たちが満ち満ちた生活を送り、真の自分自身になるためには、どのように歩めばいいかをご存知です。私たちのすべきこと、してはいけないことを、神は愛をもって教えてくださり、私たちに進むべき道を示してくださいませ。

神はわたしたちがご自分との交わりに入るよう望まれ、友に語るように、私たちに話されます。今月のみ言葉にある通り、私たちが神の声に聞き従うなら、神の安息の中に入り、約束の地、天国の喜びにいたるでしょう。

イエスも、ご自身を羊飼いにたとえ、私たち一人ひとりを豊かな命に導くことを語っておられます。イエスがだれであるかを知っている弟子たちは、イエスの言葉に耳を傾け、彼に従います。イエスは彼らに、永遠の命を約束されます。

神が私たち一人ひとりにご自分の声を聞かせてくださることは、第二バチカン公会議でも語られています。「人間は良心の奥底に法を見出す。この法は人間みずからに課したのではなく、人間が従わなければならないものである。この法の声は、常に善を愛して行い、悪を避けるよう勧め、必要に際しては『これを行え、あれを避けよ』と心の耳に告げる。人間は心の中に神から刻まれた法を持っている…」と。

では神が私たちの心に語られる時、私たちは何をすべきでしょうか。その言葉をただ聞くことですが、聖書の中で「聞く」とは、「言われたことを全面的に受け入れ、従い、その通りにする」という意味があることを、しっかり心にとめましょう。神が私たちの手を取り、導いてくださるのに、身を任せることです。子供が母親の腕にすっかり身をゆだね、どこにでも連れていってもらうように、私たちは神に信頼することができます。キリスト者とは、霊に導かれて生きる人です。

今日こそ、主の声に聞き従わなければならない。

この言葉のすぐ後で、詩編には「心をかたくなにはしてはならない」と記されています。人は神に抵抗して、心を閉ざし、神の声を聞くのを拒否することもあるからです。かたくなな心は、自分がかえられるのを拒むものです。

悪意がなくても、私たちはそうしてしまう時もあります。心の中には、他の多くの声があり、その中で「神の声」を区別するのは難しいからです。しばしば心は、罪の傾きや神のご計画に逆行する世の中の考え方、流行や宣伝の文句など、あまりに多くの騒音であふれています。また自分の意見や望みを、心の中の聖霊の声と混同して、自分の思いのままに行動してしまうのも、よくあることです。

しかし私たちは、自分の中に神がおられることを決して忘れてはならないでしょう。この神の声を聞き取るには、自分の内ですべてを黙らせる必要があります。泥の中からダイヤモンドを取り出すように、神の声を取出し、くっついているものをぬぐい去り、よく見えるところにおいて、この声に導かれて生きるよう努めましょう。こうするなら、私たちは他の人々をも導くことができます。魂の奥底からわいてきて、私たちを力づけ、照らしてくださる神の声は、知恵であり、愛ですが、愛は分かち合うものです。

今日こそ、主の声に聞き従わなければならない。

神の声が教えてくれることを聞き取れるように、私たちが超自然的なもの、福音的なものに対してより敏感になるためには、どうすればよいでしょうか。

何よりも必要なのは、絶えず神のみ言葉に親しみながら、自らを福音化することです。福音を読み、生きることによって、私たちは福音的な考え方を一層自分のものにできるでしょう。神のみ言葉が人となられた方・イエスの言葉を深く知れば知るほど、私たちの心の中で、神の声を聞き取れるようになります。これを祈りの中で願い求めましょう。

また自分を捨てること、いつも出てくる「古い人間」、エゴと戦うことによって、私たちの中に復活のキリストが生きるようにしましょう。そのためには、神のみ旨に反するすべてのことに「いいえ」、神のお望みすべてに対して「はい」と言えるよう、しっかり準備ができている必要があります。誘惑に出会う時、それを断ち切り、自分自身に「いいえ」と言うことです。神からゆだねられた使命に「はい」、すべての隣人を愛することに「はい」、出会う試練や困難に対して「はい」と答えましょう。

そして、愛が相互のものになるまで私たちが愛する時、私たちの間には復活のイエスがおられるようになり、あらゆる所に交わりと兄弟愛のオアシスが生まれますが、その時私たちは、神の声を易しく聞き取ることができます。私たちの間におられるイエスは、一人ひとりの中におら

れる神の声を大きくし、もっとはっきり聞こえるようにしてくれる、“拡声器”のようです。使徒パウロも言っています。共同体の中でキリストの愛を生きるなら、知る力と見抜く力が一層豊かになり、本当に重要なことを見分けられるようになる、と。こうして私たちは“自分の中におられる神”と“私たちの間におられる神”という二つの“火”の間で、生きようになります。この神聖な溶鉱炉の中で、私たちはイエスの声に耳を傾け、彼に従うための養成と訓練をうけることができるでしょう。

できる限り聖霊に導かれて生きる生活は、すばらしいものです。味わいがあり、力強く、生き生きとして、光にあふれる、真の人生です。

キアラ・ルービック

* フォコラーレセンター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-14-4

TEL.03-5370-6424 FAX.03-5370-3055

E-mail focolare@sa.uno.ne.jp

お知らせ

フォコラーレの集い

日時： 3月9日（日）

13:00~16:30

場所： 東京カテドラル・ケルンホール

*お問い合わせは、フォコラーレセンターへ

(29)

蛭田幼一

一九九九年一月十一日

苦しみを比べることはできない。苦しみというからには、些細なことでもその人にとっては大したことなのだ。大したことになければ苦しみとはいわんだろう。僕にも詩人としての苦しみがあった。僕の詩はその苦しみの泥土に咲き出したものなのだ。僕はこの資質を十二分に開花せねばなるまい。それが僕に課せられた為事だといってもいいだろう。損をしたとも得をしたとも思わないよ。



諸所の企画についてのご紹介

ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

Fax(03)3594-2254

* すべての人のための祈りの集い* いのちの泉へ カルメルの靈性に学びつつ、カトリック教会のカテキズムの教えに基づいて、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。若い方、洗礼を受けたばかりの方のより基礎的なグループと子供たちのためのグループ（3才～9才まで）もあります。前期は、祈りの基礎である（信仰、希望、愛）がテーマです。

2003年前期

4月26日（土） 信仰のまなざし 十字架の聖ヨハネと共に

5月31日（土） 希望の翼 リジューの聖テレーズと共に

6月28日（土） 愛に生きる 上記とおなじ

講話：伊従信子・片山はるひ（ノートルダム・ド・ヴィ会員）

プログラム：第一部 午後2時から 講話、祈り、お茶&分かち合い
ミサ（翌・日曜日の典礼）

第二部 午後5時から 夕食、祈り夕べ（8時半頃終了）

参加費：一部のみ200円・二部までは500円

準備の都合上必ず申し込み（一部のみ、二部まで参加を明記）をお願いします。

電話（18時～21時30分）Fax または郵便で、祈りの集いの係まで

*お子様とご参加の方は、お子様の年齢、性別もお知らせ下さい。

*申し込みの際、ご希望の方には案内図をお送りします。

風 の 家

指 導：井上 洋治 師（東京教区司祭）

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町鯖浦1391-7 TEL.0968-85-3100

祈りの集い

3月13日 聖イグナチオによる、黙想ならびに靈操

4月10日 十字架の道行きの祈り

5月 8日 ロザリオの祈り

黙想会

このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。（宿泊10名迄可）
ご相談ください。申し込み。TEL0968-85-3100 FAX0968-85-3186

三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL. 042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」 指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2003. 2月22日（土）5:30pm～23（日）4:00pm 了

6月28日（土）5:30pm～29（日）4:00pm

10月25日（土）" 26（日）"

2004. 2月21日（土）" 22（日）"

祈りの集い：神が下さる私の道 指導：星野正道師（カルメル会）

対象：男・女青年信徒

2003. 2月11日（火）10:00am～5:00pm 了

5月18日（日）10:00am～5:00pm

10月19日（日）10:00am～5:00pm

2004. 2月8日（日）" "

黙想会

指導：星野正道師（カルメル会） *対象、一般信徒

2003. 5月19日（月）10:00am～4:00pm

10月20日（月）10:00am～4:00pm

年の黙想会

指導：星野正道師 *対象、修道女

2003. 7月23日（水）5:30pm～7月31日 朝食後解散

指導：雨宮師（東京教区司祭）対象：修道女

2003: 12月26日（金）5:30pm～2004.1月4日 朝食後解散

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い *対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第2グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm～2:00Pm)

マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2
TEL. 03-3351-0297

1. 聖書深読黙想会 : 毎月第二日曜日 対象: どなたでも
2. 詩編: 毎月第一火曜日 (第一火曜が祝祭日に当たった場合は第二火曜日)
3. ヨハネ福音書: 五月で詩編が終わり、六月よりヨハネ福音書に入ります。同じ第一火曜日です。ご自由にご参加下さい。
4. 祈りの集い : 毎月第三土曜日 18:00~20:00.
5. 「来てみなさい」結婚、修道生活、独身生活を選定したい方、自分の人生について考えたい方

対象: 20代、30代の未婚女性 参加費: 500円 (弁当持参)
(10:00~16:30)ミサあり。

* 毎月指導者が変わります。お問い合わせ下さい

2003

3/23 (日) 彼らをこの世から取り去ることなく悪から守って下さるように、
と、私はお願いします (ヨハネ17.15)

聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126 静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax. 0559-92-2120

祈りの集い (問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで!)

● 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか?

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは: 165-0033 東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL. 03-3337-3291

『心のいほり、内観瞑想センター』 代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

* TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

* 活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

* 希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

場所・期日 3/9 (日) 2時~3/15 (土) 2時まで、鹿兒島溝辺
3/23 (日) 2時~3/29 (土) 2時まで 兵庫、宝塚売布
4/3 (木) 2時~4/9 (土) 2時まで・横浜・戸塚
4/21 (月) 10時~4/26 (土) 4時まで・京都・竜安寺
5/3 (土) 10時~5/5 (月) 4時まで・兵庫・宝塚
5/11 (日) 2時~5/17 (土) 2時まで・兵庫・生野
5/25 (日) 2時 5/31 (土) 2時まで・未定・関東

ズランハウス

責任者・ 井口 貴志

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族
のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細を知りたい

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222

瞑想の家 東 光 庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師（神言会） *詳細問い合わせは電話で

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

リーゼンフーバー研究会案内

2003

キリスト教 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペ
入門講座 ホール。どなたでも聖書に基づきキリスト教の基本テーマを致します。

キリスト教 毎月第一・第二火曜日18時40分～20時30分 聖イグナチオ教会
理解講座 アルペンホール。キリスト教の基礎知識のある方。2年間コース
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心テーマを探求

聖書研究会 木曜日 12時40分～13時25分上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。

座禅会 *月曜日 17時20分～20時10分 * 木曜日18時20分～20時30分
どなたでもどうぞ。初心者歓迎、遅刻、不定期の参加可。

接心 2003. 3/15 (土)8時30分～3/16日 (日) 16時 上石神井 (5400)

ミサ：水曜日

17:10～18:00 場所：上智大学内クルトゥムハイム1階右小聖堂
どなたでも（8月を除く）

黙 想：毎月第2、第4火曜日18時45分～20時

水曜日 18:00～18:30 場所：上同じ（ミサ、黙想、8月、11/1を除く）

祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00 場 所：S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。*.2003.1/18.2/22.3/8

黙想会： 2003. 3/1. (土) 10時～2日 (日) 15時 1泊4400円

アガベ会： 説明会と集い・下記の日 13時30分～ (20代～40代の信者)

以上、問い合わせ・連絡先 : クラウス・リーゼンフーバー神父

横浜聖書深読黙想会 2003年日程

回数	月 日	場 所	指導司祭	備考
第1回	1月29日(水) ～30日(木)	イエズス会鎌倉修道院 (十二所)	新井 延和 神父様	了
第2回	3月26日(水) ～27日(木)	上野毛修道院黙想の家 (東京 世田谷)	星野 正道 神父様	
第3回	5月29日(木) ～30日(金)	ザビエル・センター (横浜 滝之上)	奥村 一郎 神父様	
第4回	7月10日(木) ～11日(金)	不二聖心会黙想の家 (裾 野)	新井 延和 神父様	
第5回	10月9日(木) ～10日(金)	ザビエル・センター (横浜 滝之上)	九里 彰 神父様	
第6回	11月18日(火) ～19日(水)	聖テレジア修道院 (宇 治)	奥村 一郎 神父様	

[イエズス会鎌倉修道院黙想の家]

〒248-0001 鎌倉市十二所 80 Tel 0467-25-1616

[上野毛修道院黙想の家]

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 Tel 03-5706-7355

[不二聖心会黙想の家]

〒410-1126 裾野市桃園 198 Tel 0559-92-2120

[聖テレジア修道院]

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 Tel 0774-32-7456

[ザビエル・センター]

〒231-0837 横浜市中区滝之上 1 Tel 045-621-1974

連絡責任者 密本 昌俊 Tel・fax 045-621-5838

聖書深読ご案内

翌日の日曜日の福音を、深く味わい、分かち合い、解説で学びながら、福音を深く心に刻む 聖書深読黙想に、お誘いの上、ご参加ください。

1.	1月11日(土)	北村 善朗 神父	了
2.	2月 8日(土)	奥村 豊 神父	了
3.	4月12日(土)	新井 延和 神父	
4.	5月10日(土)	奥村 一郎 神父	
5.	6月14日(土)	北村 善朗 神父	
6.	7月12日(土)	新井 延和 神父	
7.	9月13日(土)	奥村 豊 神父	
8.	10月11日(土)	奥村 一郎 神父	
9.	11月 8日(土)	中川 博道 神父	
10.	12月13日(土)	新井 延和 神父	

場 所 : 河原町カトリック会館6階
費 用 : 各回2500円 (昼食代を含む)
時 間 : 午前10:00~午後4:00
持参品 : 聖書・筆記用具・ノート

* 申込・問合せ : 〒604-8006 京都市中京区河原町三条上ル
河原町カトリック会館内 聖書委員会
TEL:075-211-3484 FAX:075-211-3910
各回、お申込は、3日前までに

主 催 : 京都教区聖書委員会

ほだのごとき老いの身内に紅き火を
ともし給ひぬ主の代理者

マリア安達留子遺稿集

萩の歌より



上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

聖テレジア修道院（黙想）は、カルメルの靈性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線：「^{かみのけ}上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線：「^{ろくじぞう}六地藏駅」下車徒歩15分

京阪バス：六地藏の町並バス停より^{おくらやま}御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共：0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って^{あきつひし}明碓橋を右折

男子跣足カルメル修道会

聖書に親しむ

— 聖書を心で読む —

講師 カルメル会司祭 奥村 一郎

〈 講座のねらい 〉

聖書にはさまざまな読み方があり、理解のしかたも人それぞれです。その聖書の心に触れ、学び、理解を深めていくことを目的としている深読法とは何か。通信講座「聖書に親しむ」の講師である奥村一郎神父が、深読法について具体的に聖書を通して解説します。聖書に関心のある方、今まで聖書を読んだことがない方でも参加できます。

※ 『聖書』（聖書は、通常「新共同訳」を用います。他の翻訳（新旧約を含む）でも結構です。）・『聖書深読法の生いたち』をお持ちの方は、ご持参ください。

〈講師紹介〉奥村 一郎（おくむら・いちろう）

東京大学在学中に仏教よりキリスト教に回宗。大学卒業後にカルメル会入会のため渡仏。帰国後、主に諸宗教との対話とその交流に関与する。カトリック司祭（カルメル会）。主な著書に『祈り』『友の祈り』『断想』『神とあそぶ』（女子パウロ会）、『祈りの心』（海竜社）、『聖書深読法の生いたち』（オリエンズ宗教研究所）ほか。訳書に『カルメル山登峰』（ドン・ボスコ社）、『愛ゆえに生く』（中央出版）など。

日 時 2003年3月31日（月） 午後1時00分～3時00分
場 所 新宿住友ビル48階 朝日カルチャーセンター（裏面参照）
受 講 料 3,300円（税込み）

【申し込み方法】電話予約の上、最寄りの郵便局で備え付けの払込用紙をご利用になり、口座番号「00150-6-87041」、加入者「朝日カルチャーセンター」、通信欄に「聖書に親しむスクーリング」と予約番号、住所、氏名とフリガナ、電話番号を明記し、受講料3,300円をご送金下さい。振込票（受領証）は当日ご持参の上、教室前の受付でご提示下さい。ご送金後から当日まで変更がない限り、朝日カルチャーセンターから連絡は差し上げませんので、ご了承下さい。祝祭日を除いて、新宿住友ビル4階でもお申し込みいただけます。

【お問い合わせ】朝日カルチャーセンター 通信講座部 TEL. 03-3344-2527（直通）

〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル私書箱 21号
インターネット接続先 <http://www.asahi.com/acc/acc.html>

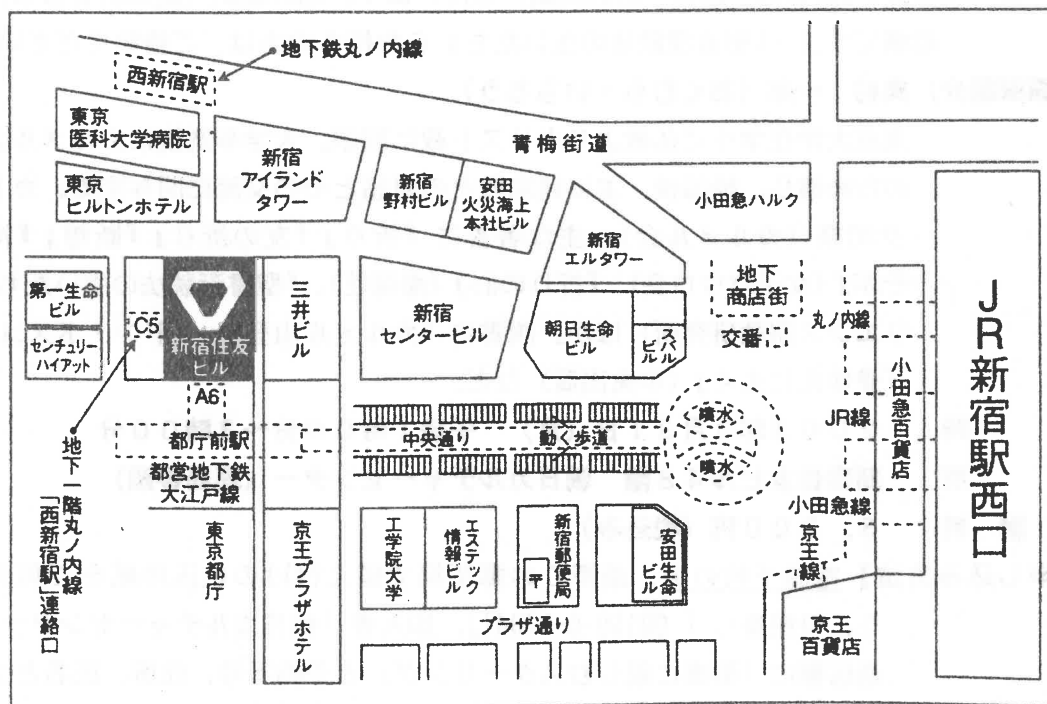
〈会場へのご案内〉

朝日カルチャーセンター（新宿住友ビル内）は、JR小田急線、京王線、西武新宿線など、いずれも「新宿駅」下車、新宿駅西口広場から徒歩8分です。また、都営地下鉄大江戸線「都庁駅前」から徒歩1分、地下鉄丸ノ内線「西新宿駅」から徒歩5分のところにあります。

新宿駅からお越しの場合は、地上の道路よりも地下道からの方が分かりやすいです。

※ 地下道からの道順

JR「新宿駅」地下改札口を出て右側に、小田急エースに沿って地下道を真っ直ぐ歩くと、そのまま地上に抜けます。右手2つ目の銀白色の高層ビルが新宿住友ビルです。



お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

-
- ・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 佐々木茂子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

☎045-575-5722

あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道

